PROFICIENCY-BASED INSTRUCTION(PBI)
中級から上級への指導について

Tomoko Takami （高見智子）University of Pennsylvania

アクラスZOOM寺子屋
『PBIによる日本語教育の実践：プロフィシエンシーを伸ばす、話す能力をつちかう授業』
3/2/2025 9AM-11AM in Japan (3/1/2025 7PM-9PM in EST)

プロフィシエンシー重視教育

プロフィシエンシーとは？
言語を使って実際にできること
■ 例：言語学習・スポーツ

実際に言語を使う場をつくる
ことが鍵

プロフィシエンシーを伸ばすポイント１

プロフィシエンシーを考慮したクラス展開をする

今の段階（言語を使ってどんなことができるか、できないかという熟達度のレベル）を理解し、
目標（次に何ができるようになる必要があるか）をたて、
その目標を達成するためには何をすればいいのかを考える
現段階ーーーーーーーーーーーー＞目標

例）プロフィシエンシーのガイドラインの例

- ACTFLガイドライン
- Common European Framework of References for Languages (CEFR)
- 日本語教育の参照枠

(例)アクトフルOPIガイドライン

(PB Iによる日本語教育の実践：プロフィシエンシーを伸ばす、話す能力をつちかう授業 (2024)　pp28-29)

機能・タスク

超級：身近な話題不慣れな話題について、意見を弁護し、仮説を打ち立てる

上級：主要時制枠において、ナレーションと描写ができ、不測の事態を孕んだ日常的な状況や取引に効果的に対応できる。

中級：言語を使って自分の伝えたいことを作り出す、簡単な質問に答えたり、質問をすることができる。単純な場面や取引状況に対応できる。

初級：決まった語句や暗記した発話で、必要最小限のコミュニケーションができる。単語、語句、リストなどを産出する。

場面／話題

超級：ほとんどのインフォーマル、フォーマルな場面。一般の関心事に関連した話題と特定の興味や知識に関する分野の話題といった幅広い範囲

上級：ほとんどのインフォーマルな場面とフォーマルな場面の一部/個人に関連した、または一般的な話題

中級：いくつかのインフォーマルな場面と限られた数の取引の場面/予測可能な、日常生活や個人の生活環境に関連した話題

初級:もっとも頻繁に起こるインフォーマルな場面・日常生活のもっともありふれた内容

(例)アクトフルOPIガイドライン

(PB Iによる日本語教育の実践：プロフィシエンシーを伸ばす、話す能力をつちかう授業 (2024)　pp28-29)

正確さ・理解難易度

超級：基本文法に間違いのパターンがない。間違いがあっても、聞き手はメッセージから注意をそらされるなどコミュニケーションに支障をきたすことはない

上級：非母語話者に不慣れな話し相手でも問題なく理解してもらえる。

中級：非母語話者に慣れた話し相手に、時に繰り返したりすることはあるが、理解してもらえる

初級:非母語話者に慣れた話し相手にもしばしば理解するのが困難な場合がある。

テキストタイプ

超級：複段落

上級：口頭段落・つながりのある段落

中級：ばらばらの文・つながった文

初級:　個々の単語、語句、リスト（列挙）

中級から上級に到達する鍵

- 発話が質・量とともに豊富なこと
- 口頭段落レベルを維持できる
- 自分の身近な話題、社会的・一般的な話題についてしっかりとナレーション、描写ができ、積極的に会話に参加できる。

プロフィシエンシーを伸ばすポイント1

プロフィシエンシーを考慮したクラス展開をする

- プロフィシエンシーを意識して目標・目的をたて、何を持ってその目標・目的が達成されているか考え（評価）、カリキュラム、教材、タスク・アクティビティなど学習活動をデザインする
- 足場掛け（スキャフォルディング）：例：子供が焼肉を食べるには？
- 学習者に目標とすべきプロフィシエンシーを伝え、学習活動の目標や目的を伝える→学習者が学習活動の意義を理解し、主体的に学習活動に取り組むことが大切。

プロフィシエンシーを伸ばすポイント２

実際に日本語を使う、コミュニケーションをする機会を作る

- クラスルームディスコースの例：質問ー答えー評価（IRE）
- ティーチャートーク
- フィードバック・文法指導

読み物（新聞記事）やビデオレクチャーを使った授業

理解ー産出ーインターアクション（Process, Production, Interaction）（Nunan 2014）

- 理解　（前作業、読み物を読み/ビデオレクチャーを見た後で、内容理解など）
- 産出　（語彙・表現・文法の練習、読み物・ビデオレクチャーの内容について自分の言葉で説明）
- インターアクション（ジグソータスク・ ディスカッション・ 問題解決、意思決定タスク等）

授業活動例1：ジグソータスク
（中級から伸ばすビジネスケースで学ぶ日本語（2014: Japan Times）

- 目標
  - 自分が持っている日本語の知識や能力をフルに使って、自分の言葉で話す、コミュニケーションをする、実際に言語を使う
  - 一般的な話題について量・質ともにしっかりナレーション、描写する
  - 段落とは何か、どのように文と文が結束し段落を構成するか、段落と段落がどのようにつながり話が展開するかを意識する

手順

- 読み物を一つ用意。トピックはそのレベルにあったのもの（中級→上級：一般的な話題）
- 読み物を一つの段落を一枚にし、カードを作る。６段落であれば、A,B, C,D, E, Fの６枚のカードを作る。
- 共通の部分として、最初のカードAを全員で読み、トピックを確認する。
- A以外のカードの数と同じ学生の数のグループを作る。それぞれの学生が B, C,D, E, F、一枚づつ持ち、担当する。
- 学習者は自分のカードを黙読、内容を理解する。グループ内で、それぞれの内容を説明しあい、カードがどのように繋がるか段落の順番を話し合い、決定する。
- 答え合わせ。正しい順序を読み、段落の流れを確認。指示語や接読語、論旨の展開などに注意する。

ジグソーについての学生のコメント1/2 (2/24/2025)

- ジグソーで一番おもしろい部分はクラスメートと相談しながら各パートの順番を決めることだと思う。一人ずつで、自分の段落の一番前のことばと最後の表現をシェアして、「じゃ、Aさんの段落は絶対Cさんの後だよね」とか皆さんと一緒にちゃんと考えて、ゼロから明らかになるまでの過程を楽しんでいる。そしていろいろな接続表現も学べることも魅力点だと思います！
- ジグソーが私たち日本語初学者に対して文と文の接続を勉強するため大切な練習だと思う。文と段落の理解して上で他の学生に説明するのはオーラル練習もできる。もうし文が長くなれば、難しくなって、色々なレベルの学生によって調整ができる。

ジグソーについての学生のコメント2/2 (2/24/2025)

- ジグソーのタスクはすごく面白いと思います。皆が言葉から文の順を推測して、日本語学習にとてすごく役に立ちます。
- The jigsaw challenge is very helpful in letting me practice summarizing my learnings in my own words as well as communicating with my group mates in how one passages link, using connections and identifying overarching themes.

  (ジグソーの課題は、(自分のカードで)わかったことを自分の言葉で要約する練習になるし、接続言葉を使ったり包括的なテーマを認識しながら、ある文章の一部分がどのようにつながっているのか、についてグループの仲間とコミュニケーションするのにもとても役立ちます　和訳:高見)。

課題例：話す課題（Padletを使う）プレゼンテーション型

- 目的：個人に関連したもの、または一般的な話題（**話題**）について口頭段落を維持しながら（**テキストタイプ**）、ナレーション・描写（**機能・タスク**）を、非母語話者に不慣れな聞き手にも問題なく理解してもらう（**正確さ**）ことができる。
- ４～5分くらい話す
- 内容の例
  - 私のライフストーリー
  - 私がおすすめをする本・漫画・アニメ
  - 夫婦同姓・別姓について
  - 私が興味がある会社・組織
  - 日本で流行しているもの

課題例：話す課題
（Padletを使う）プレゼンテーション型

例：私のライフストーリー

話したり聞いたりする練習になりますから、自分の話す課題もクラスメートへのコメントも頑張りましょう。カメラをONにしてください。スクリプトを読まないでください。これは話す練習です。

あなたの人生について話してください。頑張ったこと、今までで一番嬉しかったこと、情熱をかけていること、将来の夢、など何か一つのトピックを選んで入れてください。 例などをあげて具体的に 説明をしてください。

1）あなたのライフストーリー。あなたはどんな人なのか全体的なことを話してください。

2）自分が選んだトピックについて詳しく説明、それが大事な理由も話してください。

評価

タスク・機能の達成度 • トピックの質問にきちんと答えているか • 具体的にしっかりと答えているか • 説明の流れが自然か • **口頭段落やつながりのある談話か（テキストタイプ）**	1.5
正確さ・理解難易度 • 非母語話者に不慣れな話し相手で問題なく理解できるか • 発音 • 文法の正確さ • 語彙の正確さ	1.5
言語のレベル • 豊富な語彙・表現や構文を使っているか • 新出語彙・表現などを使おうとしているか • 使えない言葉がある場合、言い換えや説明をしているか	1.5
クラスメートへのコメント	0.5

最後に

- PBIは言語学習カリキュラムデザイン・教材作成のコア（中核）になる
- PBIを出発点にして学習者それぞれにあったカリキュラム・指導を考える
- 学習活動の目的を学習者に伝え、（必要なら）話し合い、学習者と教師が共通して理解した目標・目的とする
- 学習者自身が自ら学習活動の意義を理解し、その目標を・目的を理解してこそ、主体的な学びが実践できる

ご清聴ありがとうございました。

高見智子

Tomoko Takami

ttakami@sas.upenn.edu

Tomoko Takami (Facebook)